

2016年度出題範囲			専修学校			大学					
分野	授業科目名	内容(授業科目)	所属教科(授業科目)例	含まれるもの(内容)例	キーワード(履修項目)	授業科目	主な内容	全体目標			
動物の健康管理	動物飼養管理学	伴侶動物学(エキソチックアニマルを含む)	動物健康管理	飼育管理、日常手入れ	適正飼育、食へてはいけないもの、事故防止	動物飼養管理学	伴侶動物学	人間社会に関わりの深い様々な動物種(伴侶動物、産業動物、実験動物)の分類学的、解剖学および生理学的特徴を学習する。また、動物種ごとおよび品種ごとの飼養管理、ライフステージごとの飼養管理について理解する。			
			飼養管理学(エキソチックアニマル含む)	ウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットなど	生態、飼育管理、取り扱い				産業動物学		
		産業動物	実験動物	実験動物	主な種類、概論、倫理、3R		実験動物学				
			飼養管理学(エキソチックアニマル含む)	産業動物	主な種類、家畜歴史、家畜の主な疾病予防学、家畜飼養学、農場HACCP						
			野生動物	概論、野生動物の生態と生息環境、捕獲、絶滅危惧種の保全・保護管理、外来生物							
実験動物	動物飼育実習 I	コンパニオンアニマルの適切な飼育法	健康動物の適切な飼育法、ハンドリング								
	動物飼育実習 II	ドッグトレーニング	ドッグトレーニング法								
動物看護の基礎	基礎動物看護学	動物看護の概念 動物看護過程の展開 動物看護学の成立と特徴	動物看護学	看護学概論	看護倫理、概念	基礎動物看護学	動物看護の基本概念 動物看護過程の展開 動物看護学の成立と特徴 動物看護の役割と機能を支えるしくみ	実践的な動物看護学を学ぶ前に、その基礎となる概念についての理解、さらには様々な動物看護活動の場についての理解や、他職種との関連において動物看護の果たす役割についての理解を修得する。			
				動物の看護	看護過程、POS						
				終末期患者動物の看護	グリーフケア、ペトロス、QOL、死後の取り扱い						
	基礎動物看護技術 I	動物の健康の保持 衛生・安全管理	動物看護実習 I				基礎動物看護技術 I	動物の健康の保持 衛生・安全管理	動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼養方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理するための知識を修得する。		
	基礎動物看護技術実習 I	基礎動物看護技術 I の内容に関する実習	動物看護実習 I				基礎動物看護技術実習 I	基礎動物看護技術 I の内容に関する実習	動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼養方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼養管理ができるよう具体的な看護技術を修得する。		
	基礎動物看護技術 II	基本技術 基本的日常生活援助技術 診療に伴う技術	動物看護実習 II		診療補助、輸液管理、主な処置法、シリンジの扱い	体重測定、体温測定、保定、バイタルサイン測定、創傷管理、包帯法、電法、吸引	基礎動物看護技術 II	共通基本技術 基本的日常生活援助技術 診療に伴う技術	多岐にわたる動物看護技術を見直し、それぞれの実践に必要な知識および論理的思考を修得する。これらの技術が安全と安楽に基づいた動物看護を実践するためにいかに必要なかを理解し、診療や治療・検査における様々な処置等を適切に実践あるいは補助するために必要な知識を修得する。		
					衛生管理、調剤	院内清掃、医療廃棄物処理、各種投薬法、薬の計算と調剤					
					グルーミング	グルーミング(爪切り、肛門嚢絞り、耳掃除)、被毛の手入れ					
	基礎動物看護技術実習 II	基礎動物看護技術 II の内容に関する実習	動物看護実習 II	看護技術の実践と応用			基礎動物看護技術 II で得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物看護技術を修得する。特に診療や治療・検査における様々な処置等を適切に実施あるいは補助するために必要な技術を修得する。				
	動物看護の実践	動物外科看護技術	外科診療に伴う技術	外科動物看護実習 I	手術関連業務	手術準備、術着・手袋の着用、糸の種類、器具の種類と目的、手術助手	動物外科看護技術	外科診療に伴う技術	動物への外科的治療を補助するために必要な基礎知識を学び、その知識に裏付けられた外科看護技術を修得する。術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、理論的で安全な手術のための援助技術に関わる知識を修得する。		
					術前術後の看護	前処置、術野の準備、術創保護、リハビリテーション、疼痛管理					
麻酔・鎮痛					麻酔薬、鎮痛薬の準備、動物の看護						
麻酔モニタリング					装置の扱いと装着、評価						
動物外科看護技術実習		外科動物看護技術の内容に関する実習	外科動物看護実習 II	外科に関する技術の実践と応用		外科動物看護技術実習	外科動物看護技術の内容に関する実習	動物外科看護技術学で得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物外科看護技術を修得する。特に術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、論理的で安全な手術実施のための援助技術を修得する。			
臨床検査学		検査の基礎 検体検査 生体検査	動物臨床検査学		検体検査	便、尿、血液、細胞など	動物臨床検査学	検査看護の基礎 検体検査 生体検査	臨床現場で実施されている様々な臨床検査の原理、方法ならびに意義を理解する。検体や測定機器の正しい扱い方を修得し、所見の記録方法についても修得する。		
					生体検査	レントゲン(放射線の基本性質、防護、発生装置の仕組みと管理)、ECG、超音波、内視鏡・MFI・CTの特徴					
臨床検査学実習		動物臨床検査学(検体検査)の内容に関する実習 動物臨床検査学(生体検査)の内容に関する実習	動物臨床検査学実習 I		検体処理	処理法、保管	動物臨床検査学実習	動物臨床検査学(検体検査)の内容に関する実習 動物臨床検査学(生体検査)の内容に関する実習	臨床現場で実施される代表的な検体検査と生体検査について、使用する機材や準備の方法を理解し、実施または補助できる技術を修得する。		
					検査機器の取り扱い	顕微鏡、各種検査機器					
動物栄養管理学	動物の食生活の援助技術 動物の疾病と栄養管理	動物栄養学		血液検査・尿検査・便検査・細胞診・微生物学的検査	免疫学的検査、顕微鏡学的検査、標本作製、正常と異常の違い、クロスマッチ、培養	動物栄養管理学	動物の食生活の援助技術 動物の疾病と栄養管理	6大栄養素、ライフステージ、臨床的な栄養管理について理解する。健康状態、ライフステージ別、疾病時のエネルギー要求量を理解し、その要求量の算定式を修得する。ペットフードの種類、原料、製造方法、保存方法および法令の概要を理解する。栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、栄養管理技術の理論を理解する。			
				レントゲン、超音波、ECGなど	防護、取り扱い、準備						
				検査技術の実践と応用							
動物栄養管理学実習	動物栄養管理学の内容に関する実習			栄養素	6大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識	動物栄養管理学実習	動物の食生活の援助技術				
				特別療法食	疾病と栄養管理		動物の疾病と栄養管理				
				ペットフード市場	受容と嗜好性、ペットフードの取り扱い	動物栄養管理学実習	動物栄養管理学の内容に関する実習	動物の栄養管理に関わる手技・技術を修得する。栄養指導(エネルギー要求計算、食品成分、給餌方法)について実践する。疾病動物に対する栄養管理を獣医師に提案でき、飼い主への説明能力を習得する。			

2016年度出題範囲			専修学校			大学			
分野	授業科目名	内容(授業科目)	所属教科(授業科目)例	含まれるもの(内容)例	キーワード(履修項目)	授業科目	主な内容	全体目標	
動物看護の実践的応用	応用動物看護学	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	動物入院管理	ケア、看護計画	病床管理、観察、排泄、食事、メンタルケア	臨床動物看護学総論	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	動物の健康状態を、健康時、急性期、慢性期および終末期の4病態に区分して、それぞれの健康レベルに応じて必要とされる様々な診断・検査の補助ならびに具体的な看護技術について理解する。また、周術期の看護の特性と症状別の看護の特性を理解し、具体的な看護援助を理解する。	
		経過に基づく動物看護		看護記録	アセスメント		経過に基づく動物看護		
		周術期の看護		治療・処置別による看護	疼痛管理、ICU、伝染病		周術期の看護		
		呼吸機能障害を持つ動物の看護	動物疾病看護学	概論	バイタルサイン、病的変化		症状別の看護		
		循環機能障害を持つ動物の看護		内科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法		呼吸機能障害を持つ動物の看護		
		栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護		外科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法		循環機能障害を持つ動物の看護		
		内部環境調節障害を持つ動物の看護		皮膚疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法		栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護		
		生体防御機能障害を持つ動物の看護		眼科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法		内部環境調節障害を持つ動物の看護		
		感覚機能障害を持つ動物の看護		歯科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法		生体防御機能障害を持つ動物の看護		
		神経・運動機能障害を持つ動物の看護	臨床動物看護学	概論	経過・症状に応じた看護		感覚機能障害を持つ動物の看護		
		排泄機能障害を持つ動物の看護		内科疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防		神経・運動機能障害を持つ動物の看護		
		繁殖機能障害を持つ動物の看護		外科疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防		排泄機能障害を持つ動物の看護		
		がん動物の看護		皮膚疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防		繁殖機能障害を持つ動物の看護		
				眼科疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防		がん動物の看護		
			歯科疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防					
	高齢動物看護	幼齢動物・高齢動物管理	在宅・訪問管理	加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善	高齢動物看護				
	幼齢動物看護		哺育	排泄援助					
	応用動物看護学演習	機能障害を持つ動物の看護のバーシミュレーション				臨床動物看護学演習	機能障害を持つ動物の看護のバーシミュレーション	機能障害を持つ動物の看護への看護実践をシミュレートする。	
	総合看護実習	総合看護実習	基準を満たした動物病院での実地実習	総合臨床実習	動物病院実習		総合臨床実習	基準を満たした動物病院での実地実習	動物病院で働く他職種との連携、獣医療チームにおける動物看護師の役割を理解し、健康障害をもつ動物を受け入れ、対象の特性と動物看護の必要性への理解を深めるとともに、動物看護過程を展開する基礎能力および動物看護師として必要な態度を身につける。
				救急救命対応	エマージェンシーとは 救急救命疾患	トリアージ、生命徴候、救命法(CPR) 中毒、誤飲誤食、外傷、熱中症、溺水、感電			
			クライアントエデュケーション	疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導	飼い主指導、啓蒙				
			院内コミュニケーション ※演習含む	受付、クライアントコミュニケーション	カルテ作成、退院手続、薬の説明、会計業務、問診、電話対応				